

2013 年度会報 街中ゆったりカフェ

■ 目次

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 調査、研究、論評・・・・・・・・・・・・ 2
 - 錫杖頭はなぜ劔岳に残されていたのか 2
 - 上市町の石仏 4
3. 実践、報告・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 輪飾り”折り紙”
4. 随筆、紀行文・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - ゆったりカフェ、毎回楽しませていただいています
 - 歴史ドラマ感想
5. 資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
6. おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

■ 本会について

◇ 主旨

本会は、みなさんで気楽におしゃべりあうことを目的としています。日常の出来事、趣味などについて、おしゃべりたいことは沢山あります。月一回、第二か第三の水曜日前後におしゃべりの場を設けて、どなたでも自由に立ち寄って、おしゃべりを楽しんでいます。また、見学会や講師をお招きした勉強会も行っています。

◇ 最近のテーマと様相

上市の歴史をテーマにここ数回語り合っています。(次年度も続きそうです。) 会の様相は、上市町の歴史を主體的に勉強しているためか、歴史を通して地域に貢献する歴史研究の場となっています。

1. はじめに

本会の目的を少し格調高く言えば、皆さんから話題を持ち寄って談義しましょうということです。月一回の談義の場はいつもヒートアップです。なぜこうも熱い談義なのかと考えてみれば、皆さんが多種多様な場でおもしろく生活を楽しんでおられるからなのでしょう。しかも皆さんが知的好奇心旺盛となれば、当然でしょう。

会ではせっかくの盛り上がりをも何とか形にしたいとの声なき声があり、ここに一年のまとめとして会報を皆さんで出すことにいたしました。会報といえば、

格調高く立派なもの相場が決まっていますが、ここは手作りで気張らずにということに結果的になりました。皆さんで盛り上げる会報だから、それで十分かとぞんじます。これをもちまして挨拶といたします。なお、会の詳細は、HP を見てください。会員数は現在 12 名です。

<http://buna.html.xdomain.jp/cafe.html>

または「街中ゆったりカフェ」で検索。

◆2013 年度活動記録

会の発足 11月20日(水) HP の立ち上げ

定例会の開催 上市町公民館にて、

月一回 13:30-15:00

・11月20日(水) 3人参加

「上市の歴史を楽しむ会」発足。会の様相を決める。

年一回の会報発行：研究や紀行文、エッセイ等で

年に数回、見学会や勉強会を必要に応じて開催

当面会費なし、自由参加・自由加入

・12月11日(水) 4人参加

上市の歴史資料を持ち寄り談義

・1月14日(火) 5人参加

上市の明光寺文化財について話し合う

・2月13日(水)

大岩・柿沢の歴史について話し合う

・3月12日(水) 6人参加

大岩と黒川の歴史を談。

弓の里歴史文化館で

「遺跡が語る上市のあゆみ」展を見学。



4月の定例会の様子

◆会員について

会員種類

市民会員：趣旨に賛同する市民の方々 10人

専門会員：趣旨に賛同する専門の方々 2人

2. 調査、研究、論評

2.1 鈴木良平氏論文

錫杖頭はなぜ劔岳に残されていたのか

鈴木 良平

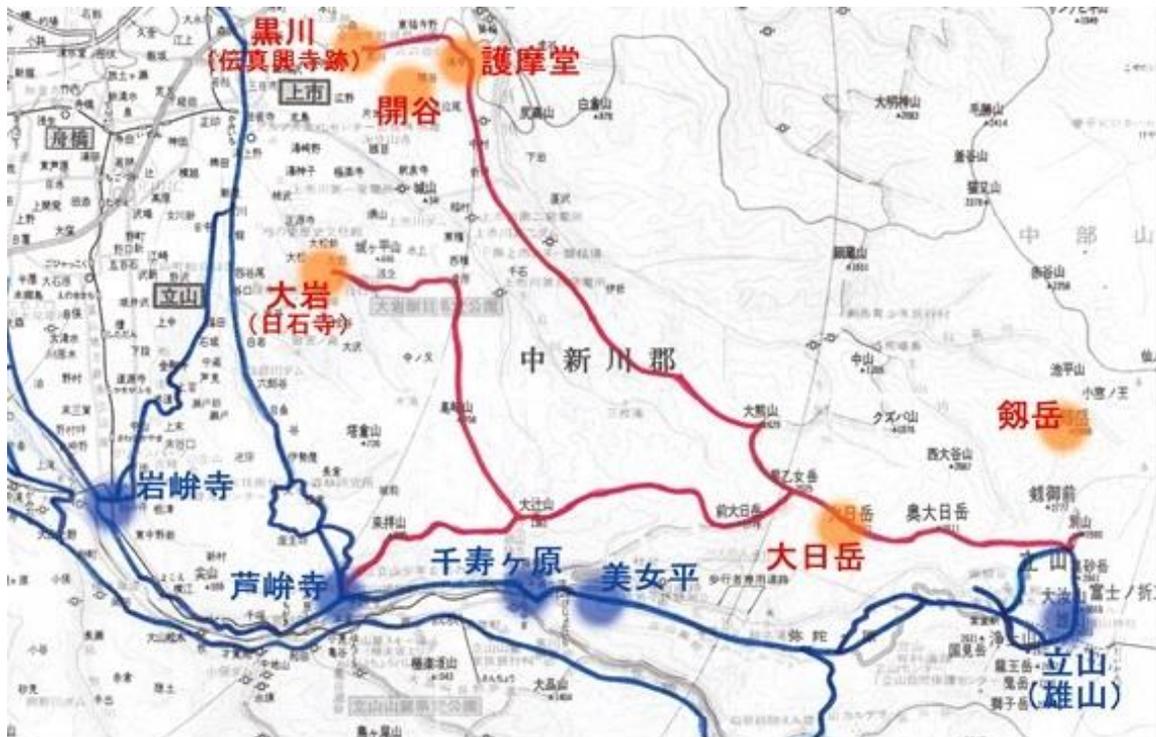
映画「劔岳 点の記」を鑑賞、もしくはその原作・新田次郎の同名小説を読まれた方ならご存知のように、1907年（明治時代）「登ってはならぬ山」とされた劔岳に“初登頂”を果たした旧陸軍測量官の柴崎芳太郎ら一行は、山頂に錫杖頭〔しゃくじょうとう〕と鉄剣を発見、初登頂ではなかったことが明らかになり、軍の威信が大きく傷つけられたとされる。その錫杖頭及び鉄剣は奈良あるいは平安時代初期のものとされ、現在国の重要文化財に指定されている。

さて、錫杖頭と鉄剣はなぜ、劔岳の頂きに残されていたのだろうか。それらを携えて劔岳に至った者が、頂上での休憩の際に誤って落としてしまったのだろうか。それとも柴崎のような後年登頂する者より先に、自らが登頂したことを顕示するために置いていったのだろうか。おそらくどちらも違う。劔岳に至った者は、錫杖頭と鉄剣を恭しくも山頂に奉納したのである。

かつて山は神そのものであった。「山に入る」という表現があるが、山は人の住む「里」とは異なる神々の領域だったのである。ましてや劔岳を含む立山の峰々は険しく奥深いことから、見晴らしの良い場所から参拝する「遙拝〔ようはい〕」の対象であった。登る場合は「登拝〔とうはい〕」と呼ばれ、その行為自体が参詣であり修行でもあった。単なる登山となるのはそれこそ陸軍とともに劔岳への登頂を競った山岳会の登場（近代登山の始まり）を待たなくてはならない。

錫杖頭を持って劔岳に至った者は、果たして無事に下山できたのだろうか。それとも不運にも命を落としたのだろうか。それはわからないが、その者は錫杖頭と鉄剣を山頂に奉納することが目的であり、それが果たせて本望だったに違いない。

では、錫杖頭と鉄剣を奉納した者はどのルートから劔岳に至ったのだろうか。ヒントとなる記録すらないためわからないが、立山への登拝路は現在のアルペンルートに重なる道以外にも複数あったとされる。県及び上市町の調査によって想定されたかつての登拝路を次に示す*1。



千寿ヶ原、美女平を経るルートと黒川・大岩から大日岳を経るルートの大きく二つが想定されており、前者は天台宗系、後者は真言宗系の修験者が利用したとされる。

上市町大岩地区には725年(奈良時代)に行基によって開かれたとされる真言密宗(現在約50ある真言宗派のひとつ)大本山の日石寺があり、最盛期には21社60坊を抱える大寺として名を馳せたと言われている。江戸時代に、立山へ登拝する人々が山麓の岩峠寺・芦峠寺の宿坊に宿泊してから翌朝装束を整え向かったように、日石寺も中世までは修験者たちの宿坊も兼ねた拠点寺院だったのだろう。

一方、上市町黒川地区にはかつて真興〔しんごう〕という僧が1008年(平安後期)に開いた真興寺という真言宗寺院があったと伝えられている。近年、地元で古くから「フルデラ」と呼ばれていた場所の発掘調査が行われ、その地に寺院があったことが判明したため、伝承にある「真興寺」と比定、近隣の施設とともに国史跡に指定された。もし事実であれば、真興寺は日石寺同様の拠点寺院だったかもしれない。

その伝・真興寺跡から尾根づたいに東へ向かうと、空海が止錫したと伝えられる護摩堂地区に至る。護摩〔ごま〕とは、薪を燃やした炉中に種々の供物を投げ入れ(護摩焚き)煙とともに供物を天上に運ぶ密教の儀式で、護摩を行うための建物は護摩堂と呼ばれる。護摩堂地区は、その地名と位置関係から劔岳あるいは立山(雄山)を遙拝して護摩を行った場所と想定されている。このことが、立山登拝ルートとして黒川(伝・真興寺跡)から護摩堂を経由して大日岳に向かったのではないかと考えられる所以である。ちなみに、黒川地区の南東隣にあたる開谷〔かいだん〕地区は立山信仰の霊場として発達したと伝えられており、そこで継承されてきた舞踊「開谷民踊」は上市町無形民俗文化財に指定されている。

なお、彼ら登拝者たちが劔岳への本当の“初登頂者”だったかという点、おそらく違う。天狗平からは石鏃〔せきぞく〕が採取されており、弥陀ヶ原や室堂平でも石鏃が、美女平からは縄文土器が発見されたと伝えられている(所在は現在不明)。気候や生活様式が現在とは大きく異なっていたとはいえ、人々は縄文の時代から立山を訪れていたことを物語っている。

「錫杖頭はなぜ劔岳に残されていたのか」。映画や小説を通して、錫杖頭の持ち主のことまで思いを馳せた人は私も含め殆どいないだろう。それは新田次郎氏の文才の妙によるものとして気にしないことにして、歴史を愛でる我々としては、“現象”を現在の理屈で解釈せずむしろそれを疑いつつ、可能な限り当時の人の考え方にまで想像を膨らませていきたいものである。そうすることで、“現象”の背後にある思想が「いま」に示唆を与えてくれるような気がするし、何よりその方が、楽しい。



伝真興寺跡遠景(中央の刈られた部分)。尾根中腹の平坦地に位置する*2

- 出典
- 上市町観光創造会議発行「霊峰劔岳を仰ぐ信仰の里巡り 解説書」(2013)
 - 立山町教育委員会編集・発行「立山道石造物マップ」(2013)
 - 弓の里歴史文化館編集・発行「かみいちの文化財」(2014)
 - 富山県埋蔵文化財センター編集・発行「霊峰立山の文化財ガイド」(2011)
 - 富山近代史研究会歴史散歩部会編「富山県の歴史散歩」(2008)山川出版社

*1 地図は富山県知事政策局広報課発行「とやまの姿2011」をスキャンして使用、ルートは上記「立山道石造物マップ」をもとに記入

*2 上市町教育委員会「史跡上市黒川遺跡群保存管理計画策定報告書」(2009)より拝借

報告 「上市町の石仏」

文山純子

1、はじめに

上市町の観光の目玉は眼目山立山寺や大岩日石寺、穴の谷の霊水などたくさんあります。私は何回も見学しました。

でも、上市町の中心にも何か興味深いものがあるのではと地鉄上市駅構内にある観光案内所に行きました。こちらで教えていただいたのが次の三つの石仏です。

①五輪浮彫供養碑（上市町下経田） 写真①-1、①-2

②山神坐像（上市町新屋 明光寺境内）写真②-1、②-2

③追討地蔵（上市町稗田） 写真③

最近「北陸石仏の会」副会長をされている平井一雄さんに誘われ石仏の会に入会して色々案内してもらっているので、少し石仏に興味が出てきたところです。

上市駅から歩いて、この三箇所の石仏を見てきましたので報告します。

2、報告

①五輪浮彫供養塔

長さ1m幅45cmの平らな安山岩に五輪塔を浮彫したもので水輪に大日如来を表す梵字(バン)が刻まれている。

昔、上市川の氾濫の時、上流から流れてきたと言われている。興味深いのは雨が降らず、日照りが続くとこの五輪塔を起こして祈れば雨が降ると言われ「雨降り地蔵」と言われていた。今も子供達の間には「地蔵起し」という遊びが残っているという。

北島、稗田、若杉等では乾水の時に、この地蔵を起しにゆくと、オタレ水（灌漑排水、湧き水）の豊富な経田村が不寝番を立てておき大乱闘になったという歴史が大正10年代までであったという。農民と水の深刻な生活史を秘めた因縁のある供養碑である。（五輪浮彫供養碑案内板より）

②山神坐像

山神坐像は高さ39cm丸彫、花崗岩。

両膝を立て、腰を落とし、両手を膝の上に置き、丸い顔、目を大きく開いている。大岩村上の平にあった藤縄家の守護神であったと同時に村の守護神でもあった。同家の移転とともに幾たびも変ったのち新屋に移り同地雄山神社のご神体となった。

今は村を洪水から守った大石が同社のご神体となっている。（『上市町史』より引用）私は山神様は芦峯寺の（おんばさま）に似ているとおもった。

③追討地蔵

「弓庄山明光寺」のある上市町新屋と隣村稗田村の間にある地蔵堂です。

祖先が明光寺に入寺している稗田の三輪家が管理している。

佐々成正が越中に入り上杉方に着いている土肥政繁が弓庄城を死守したが上杉の援軍がこなかった為、城は落城した。落城とともに城兵は逃げ出し、追討によって多数の城兵が殺された。城主政繁も北島安養寺で自害したという口碑

がある。

明光寺もその追討の際に焼き払われたと伝えられている。

三輪家では先祖が、この戦いで追われ、この地で没したというのでこの「追討地蔵」を建て今日でも管理している。この騒乱が治まって後、土肥家の牢人6人が帰農して、この地に小屋を作り農業に従事した。これが新屋村の始まりであるという。(『明光寺史』より引用)

平井さんに写真を見てもらったら蓮の花を持っていて頭に阿弥陀の化仏があるので聖観音さまであると思われるが地元で「追討地蔵」と呼ばれているのだからそれでよいだろうといわれた。

3、おわりに

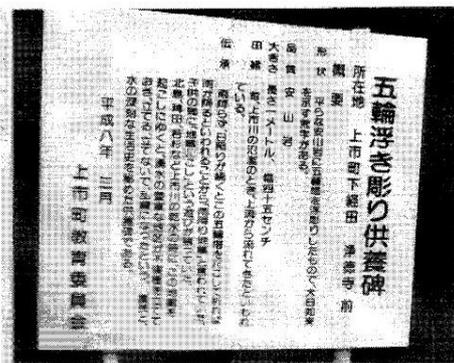
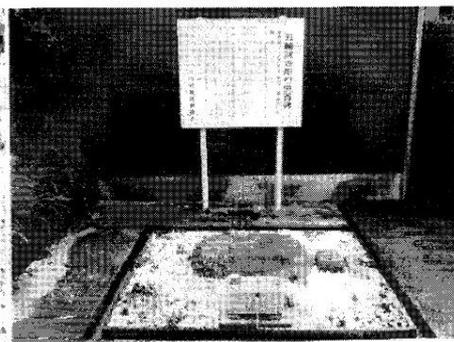
文化財ではありませんが山神坐像を安置している明光寺のお寺は外観はコンクリート製ですが、お寺の中は昔のままで良かったです。

住職さんに『弓庄山明光寺史』をいただきました。やはり石仏の「追討地蔵」が気になりました。上市町には立山信仰に関する神度神社や黒川遺跡群などもありもっと見たいと思っています。それと「弓の里歴史文化館」には常設展示されている石造狛犬4体がありました。出所不明ということですが気になります。

写真④大山歴史民俗資料館に展示されている有峰の狛犬とそっくりなのです。ぜひ一度見てください。

おわり

上市町の石仏 写真資料(撮影 文山純子)



①-1 五輪浮彫供養碑案内板



①-2 五輪浮彫供養碑



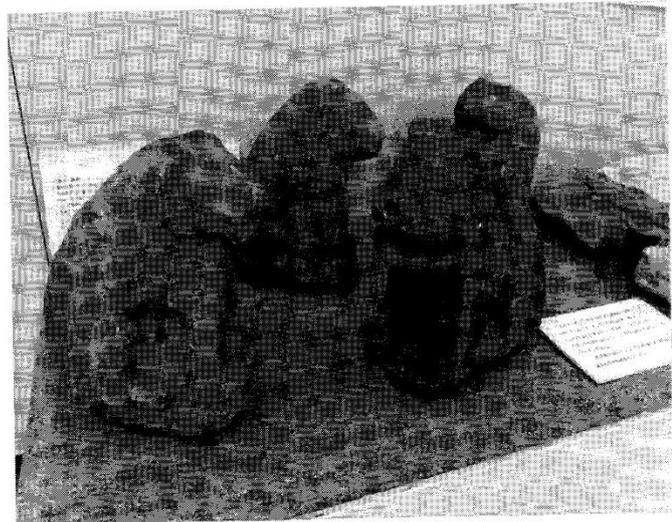
②-1 山神坐像標識 (明光寺境内)



②-2 山神坐像



③ 追討地蔵



④弓の里文化館 石像狛犬4体

上市駅周辺の地図 下経田と稗田に○印あり



3. 実践

3.1 嘉藤俊子氏実践記、「輪飾り“折り紙”」、学習の記録、h25年度ふるさと町民学園、2013.3、p.10、上市教育委員会

【第8回別生きがい大学】

「輪飾り“折り紙”」～伝承された日本の美～
講師:近代美術館ボランティア
嘉藤俊子氏

平成25年11月25日(月)

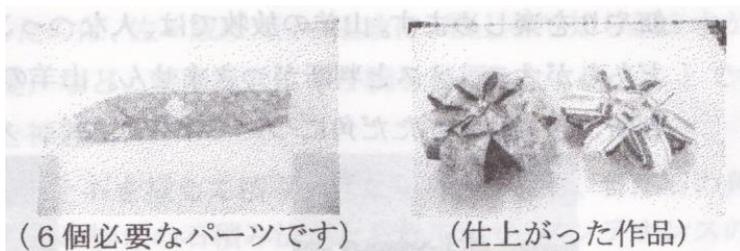
日本が誇る折り紙文化の中から、「輪飾り作り」の講座を開催しました。折り鶴の絵柄が江戸時代後期の浮世絵に描かれていることから、当時既に折り紙が盛んに折られていたことがわかります。また、折り紙の文化は、日本古来の畳文化に始まるとも言われており、室町時代頃に始まる紙包みの儀礼折りが折り紙の始まりになるのです。現在も使われている熨斗包みは、その時の名残です。

(1)輪飾りのつくり方

一枚の紙を3等分し、同じ形のパーツを6個作ります。折りたたむにしたがって形を変えていく折り紙の醍醐味を味わいながら折りました。谷折り、山折り、合わせ折り、かぶせ折りとプロジェクターに映し出される映像に合わせて折っていきました。

仕上がった輪飾りにつりひも、ビーズをつけるとできあがりです。

折り紙だけの作品よりワンポイントの飾りをつけると全く違った作品に仕上がりました。



(2)折り紙の歴史

紙の製法が伝えられたのは、7世紀の初めでした。しばらくして、畳んでも広げても破れない柔軟で美しい和紙が作りだされました。武家社会では手紙をたたんだり、紙で物を包んだりすることから、礼法的な折り紙文化が生み出されました。江戸時代になると鶴などに見立てて折る遊技折り紙が盛んになりました。

(3)学びの声

折り紙の歴史は、端午の節句、弥生の節句のように長い歴史があるのかと思っていたけれど意外に浅い歴史にびっくりでした。折り紙の本が市販されているので、いろんな物を作ってみようと思いました。



4. 随筆、紀行文

4.1 林順氏寄稿；ゆったりカフェ、毎回楽しませていただいています

ゆったりカフェ、毎回楽しませていただいています。偶々 文山さんと知り合い、仲間に加えていただきました。

私は歴史が好きです。若い頃は世界史も結構本を読みました。十字軍やフランス革命、ハプスブルク王朝のこと等々、手あたり次第に読んだものです。とりわけ、日本史が好きです。その訳は、自分に纏わる祖先 ひいてはこの日本の国が大好きだからです。私という存在が今あるのは、父母や祖父母や更にずっと遡っていく幾百人、幾千人 いや幾万人だろう我が祖先のどのお一人が欠けても私という存在は無かったのだから・・・。

ふるさと上市の里や廃村や路地裏を仕事の入っていない休日は、散策、徘徊しています。五井尾や開谷や大岩や広野などなど。ゆったりカフェ、今のユルユルな感じで良いのでは・・・。学生時代の文化部の様な感じ。

今回は、こんなところでお茶を濁させて頂きました。 草々

4.2 富樫豊氏感想文；歴史ドラマ感想「八重の桜」

13年NHKのTV番組「八重の桜」について感想を求められ、喜んでこれに応えたことがあります。理由は、歴史が好きだからということと、いっばしのTV番組批評家として振舞いたかったからです。

当該番組が週一の連続のものですが、毎回感想を述べる気にはならず、やはり全体像を見据えたものでないと小手先感がしてならないので、全貌の感想を述べます。ただし、私は歴史ファンなので、ポジティブに批評することにしました。

歴史上の人物を主人公にする場合、一般にはほとんど知られていない人物しかも女性にスポットを与えたところが何といても庶民的でありチャレンジ精神が見て取れます。一介の（やや著名なのかもかもしれないが）八重という女性が時代に翻弄されながらどう生きて行ったかがドラマのポイントであり、荒々しい武の面と慈しみの文の面が制作者によって実に小気味よく描かれて（演じられて）いました。

私は、八重の世界を毎週1時間ながらも一年間接することで覗き見できて楽しんでいました。しかも、最初のテーマソングとその時のシーンは毎回同じであるにもかかわらず、一週間ご無沙汰ですって感じの挨拶に思え、感じ方が時々で変わってきたことを覚えています。また内容については、一つ一つの事象よりも、八重とその相手役との会話から時代を垣間見ることに楽しみを見出していました。これも、演技者が当然役の人物になりきっているからなのであり、本当にその世界に入り込んでしまっていました。このような楽しみ方も歴史ファンの特権かもしれませんね。

5. 資料

5.1 上市の歴史資料

本年度に収集した資料は以下の通りです。原資料は事務局にて保管しています。いつでも閲覧できます。

- 1) 上市の栄光編集委員会;上市の栄光 1980.3.31、上市教育委員会
- 2) 上市の民話編集委員会；上市の民話、上市教育委員会
- 3) 作者不詳；上市町歴史の道 刻字 石像 文章 伝承 などに基づいて、発行年不明
- 4) 大岩小学校；大岩地区の概要の歴史、大岩小学校、1961
- 5) 作者不詳；大岩資料、1950.10
- 6) 佐伯邦夫；剣岳地名大辞典、立山カルデラ研究紀要第13号、2013、pp.17-52

6. おわりに

今年度の活動をまとめました。手作りの好きものの冊子ということで満足しております。次年度はステップアップできればと思っています。

なお、事務局への連絡先は washi*theia.ocn.ne.jp です。*を@に変えてご利用を。